

ことばは、心が込められたボール

全校の皆さん、おはようございます。今週から「なかよし週間」に入りました。今回の「なかよし週間」では、皆さんに言葉について考えてほしいと思います。

お友だちと会ったり、遊んだり勉強したりするとき、私たちは「ことば」を使います。朝、お友だちに会うと「おはようございます」、帰るときは「さようなら」。「一緒に遊ぼうよ」「うん。遊ぼう」。色々なところで言葉を使いますね。

お友だちとの言葉のやり取りは、校長先生はキャッチボールのように思います。皆さんもキャッチボールをしたことがあるでしょう。キャッチボールをする時、皆さんはどんなことを考えて、投げたり受け取ったりしますか。

6年生のHさんとキャッチボールをしてみますので、見ていてください。



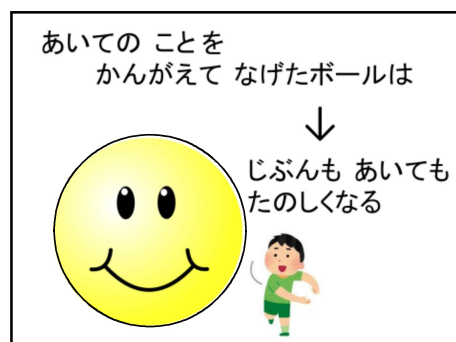
#### 《キャッチボール1》

校長先生は、Hさんがボールを受け取りやすいようにと思って、できるだけ体の真ん中に投げるようにしました。そうしたら、Hさんはしっかりと受け取ってくれました。

Hさんはどんな気持ちでキャッチボールをしましたか。

Hさん「とりやすいボールを投げってくれたので、僕も校長先生が受け取りやすいように考えて投げました」

校長先生もHさんと全く同じ気持ちでしました。やっているうちに、お互いに気持ちがつながったようで嬉しくなりました。



では、こんなキャッチボールはどうでしょうか。

#### 《キャッチボール2》

わざと、強くそらして投げる。相手も、そらして放りつける・・・

今のキャッチボールは、校長先生は、わざと取れないように投げました。すると変なボールが返ってきたので、次はもっと変なボールを投げつけました。Hさんはどんな気持ちでしたか。Hさん「変なボールを投げってきたので、自分も相手が取れないような変なボールを投げました」

やっているうちに、校長先生は「いやだな」「もう、やりたくないな」と思いました。相手のことを考えたり、思い遣ったりするから、キャッチボールになるのです。でも、自分勝手に投げたり、相手が嫌がるボールを投げたりすると、キャッチボールにはなりません。嫌がるボールを投げれば、自分にも嫌なボールが投げ返ってきます。楽しくありません。



お友だちとの言葉のやり取りは、キャッチボールのように思えると言いました。

「よかったね」「頑張ったね」と褒めたり励ましたりする温かい言葉は、ボールで言うと、優しく思い遣って投げたボールです。何かあっても、「ごめんね」と言うと「いいよ」と投げ返してくれて仲直りでき、「ありがとう」で笑顔になります。

キャッチボールのように、温かい言葉やお互いが仲良く、元気になる言葉を、岩小の皆さんにはどんどん使ってほしいと思います。

反対に「ばか」「うるさい」などと、相手を傷つけたりばかにしたりする言葉は、相手や周りの人を嫌な気分、悲しい気持ちにさせます。皆さんには使ってほしくない言葉です。



終わりに、北原白秋という人の詩を紹介します。

『ひとつのことば』	北原 白秋
ひとつのことばで けんかして	ひとつのことばは それぞれに
ひとつのことばで なかなおり	ひとつの心を持っている
ひとつのことばで 頭が下がり	きれいなことばは きれいな心
ひとつのことばで 心が痛む	やさしいことばは やさしい心
ひとつのことばで 楽しく笑い	ひとつのことばを 大切に
ひとつのことばで 泣かされる	ひとつのことばを 美しく

「ことば」は、心が込められたボールです。皆さんは、どんな心を込めて言葉を使いますか。考えてみてください。

